



日本の水資源は、どのくらいあるの

水資源ふぞん量は、年あたり4217億立方メートル

日本は、世界でも雨の多い所^{ところ}にあり、年平均降水量^{ねんへいきんこうすいりょう}は、約1700ミリメートルです。しかし、人口一人あたりの年降水量^{ねんこうすいりょう}は、それほど多くなく、全世界の平均の約20パーセント程度です。その意味では、日本は、水資源が豊かな国^{ゆたかに}とはいえません。

降水量^{こうすいりょう}から蒸発散^{じょうはつさん}などで失われる量^{うしな}を引き、それに地域の面積^{ちいきめんせき}をかけた値^{あた}を、その地域の「水資源ふぞん量^{みずしげんりょう}（立方メートル / 年）^{りっぽうねん}」といいます。これを数式で表すと、

$$\text{水資源ふぞん量} = (\text{降水量} - \text{蒸発散量}) \times \text{面積}$$
 となります。

日本の水資源ふぞん量^{みずしげんりょう}をみると、年あたり4217億立方メートルあります。これを一人あたりの水資源ふぞん量^{みずしげんりょう}でみると、年あたり3412立方メートルです。

ところが、この水資源ふぞん量^{みずしげんりょう}は、全部利用できるわけではありません。水資源ふぞん量^{みずしげんりょう}は、雨^{あめ}となって降^ふったうち、地上^{ちじょう}に残^{のこ}った部分^{ぶぶん}をいいます。地上^{ちじょう}に残^{のこ}った部分^{ぶぶん}は、川^{かわ}の水^{みず}となって海^{うみ}に流れこんでしまったり、地下水^{ちかすい}となったりしているのです。

日本の川^{かわ}は、短^{みじか}く、しかも急流^{きゅうりゅう}なので、雨^{あめ}が降^ふっても、たちまち、海^{うみ}に流れこんでしまいます。本当に利用できる水資源^{ほんとうりょう}の量^{りょう}は、ふぞん量^{みずしげんりょう}の数分の一^{すうぶんいち}になってしまうのです。

必要とされる水資源対策

雨^{あめ}が降^ふっても、ためられることなく、海^{うみ}に流れこんでいる水^{みず}を、もっと有効^{ゆうこう}に使う^{つか}ために、いろいろな水資源対策^{みずしげんたいさく}が必要^{ひつよう}です。

今^{いま}では、ダム^{つく}を造^{つく}って、洪水^{こうずい}の水^{みず}をためたり、山^{やま}に木^きを植^うえて、流れ出る水^{なが}の量^{でみずりょう}をおさえるなどの努力^{どりよく}が行^{おこな}われています。（監修・保岡 孝之）

